

中学3年4組 社会科学習指導案

指導者 前島美佐江

身近な問題を解決するなかで、利害を調整し合意形成をはかり、さらに合意形成の過程やその内容について考え話し合いをおこなうことは、「対立と合意」「公正と効率」といった社会の枠組みをとらえ、社会の見方・考え方を深めることに有効であったか。

1 単元名 「部活のルールをめぐる争い」 ～問題解決を通して、「対立と合意」「公正と効率」について考えよう～

2 授業の構想

(1) 中学3年生の公民的分野の学習は、私たちが生きる現代社会と文化について学習することからはじまり、グローバル化や情報社会、少子高齢化の進展等を通じて、多様な価値観が尊重される自由で民主的な現代社会の特色を概観してきた。それは古くからの地縁的、血縁的関係の強かった日本社会の中に、「個」を尊重する社会の到来とそれに伴う問題や自己責任の増大を、生徒たちに想起させたといえよう。多様な価値観や利害関係が複雑に絡み合った現代の社会では、競争や対立が多く生まれている。これまでの地理的分野と歴史的分野の学習では、生徒が知識を関連づけ、構造立てしながら社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察できる力の育成に重点をおいてきた。それらを基盤としながら、中学3年生となる生徒には、社会の問題を解決しより良い社会をめざそうとする社会参画の力を培いたいと考える。そのためには、他者とかかわり合う学習が不可欠である。本学級の生徒は、社会的事象に対する関心・意欲が高く、問題に対して熱心に追求する姿勢がみられる。個々で考えを深めるプロセスも大切にしながら、学級での学び合いを通じ、自分だけでは気づくことのできなかつた視点や主張を知り、みんなで思考を練り上げていく学習を大切にしていきたいと考えている。

(2) 本単元は、身近な問題を解決していく中で、社会生活における対立とそれを話し合いにより合意に至ることの重要性、さらにその合意が妥当なものであるかを判断することを通して、「対立と合意」「公正と効率」といった社会の枠組みをとらえ、社会に対する見方・考え方を高めることをねらいとしている。この部分を学習指導要領には、「社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。」とあり、今後の公民の学習をすすめるうえでの政治や経済における原理を理解させる単元である。

私たちは、家族、学校、地域社会などさまざまな社会集団の中で生活し、その中では多様な考え方から多くの対立が生まれている。その対立を話し合いにより解決し、社会生活を円滑にするために互いの合意に基づいてルールをつくって生活している。みんなで合意したものであるからそこには守る義務も生じ、状況に応じて変えていくことも必要である。このような合意に基づくルールにより安心で安全な生活が営まれていることは社会の不可欠な要素である。しかし、「ルールとはこういうものだ・・・」と、教えるだけでそのような考えが身につく訳ではない。なぜルールが必要なのかという点にまでさかのぼって、問題解決的に学習を積み重ねていくことが必要だと考えている。そして、対立から合意に至りルールがつくられる過程や内容が妥当であるか判断することが社会的な見方や考え方を高めていくことにつながると考える。その際の判断の基準として「公正」と「効率」を用いたい。そのルールができる過程や内容は公正であるかどうかと、社会全体で無駄が少なく利益を上げることができるかの両面から検討する必要がある。「効率」を求めるあまり「公正」を欠くきまりはよくない。しかし、「公正」のみを追求し、「効率」でないきまりも良いきまりとはいえない。「公正」と「効率」が矛盾する場合も少なくないが、これらの妥協点をさぐりながら集団としての合意点を探っていくことが大切だと考える。今回は、生徒たちにとって身近な課題（本単元では「各部のルールをめぐる争い」）を事例として取り上げ、

その問題を解決するために、生徒たちに主張させ、討論させ、合意形成をはかり、最終的に問題解決のためのルールをつくらせる。そして、その経験を通して良いルールの条件を探るなかで、「対立と合意」「公正と効率」といった社会をつくる枠組みをとらえさせたい。

日常の身近なところで起こっている事象を知的に分析し考える今回の学習は、これから政治と経済を学んでいく生徒たちにとって適切だと考える。

(3) このような本単元の教材と本学級の生徒の実態を踏まえた上で、単元を以下のように展開する。

第1次では、生徒たちの多様な考えを誘発する教材として、球拾いと片付けをめぐる問題を事例として取り上げる。この事例を教材化するにあたり、生徒から多様な意見が出るのが予想され、「公正」と「効率」の概念がとらえやすく、「公正」と「効率」が対立する状況を生む場面設定をしていきたい。(具体的な状況設定は別紙を参照していただきたい。)概略を述べると、ある架空の中学校野球部での問題である。この部では以前から球拾いと片付けは1年生が行うことになっていたが、この年の新入部員は3人と少なく、今のルールのままだと効率が悪い。そこでこの問題をどうやって解決していくか、部のルールをつくり直すことで考えていきたい。「ルールづくり」を全面に押し出すのではなく、「球拾いと片付けを誰がどんなふうに負担したほうが良いのだろう」という視点で学習を進めていきたい。生徒を利害の対立する5つの立場に分け、それぞれの立場になり問題解決のためのルールとそのように主張する根拠を各自で考えさせる。さらに、自分と同じ立場のメンバーで話し合いをおこない、考えを深め広げる場面を設定する。次に利害の対立する者で集まり、模擬ミーティングを開き、部活動のルールを考えさせる。そこには、立場や意見の違いから「対立」があるが、自分の意見を伝え、他者の意見を知り、調整を図りながら集団としての「合意形成」の場面を設定する。対立から合意に至る過程を実際に体験し、さらに、「各自が自分の意見を言えていたか」「みんなが納得できるように努力したか」「少数意見にも耳を傾けたか」といった視点から、自分たちの話し合いの様子を振り返ることを通じて、ルールをつくる過程での公正さについて体験的に理解させていきたい。

第2次では、各グループがつくったルールを学級で発表し合う中で、良いルールについて学級全体で思考を練り上げていき、合意に至ることとそれを守ることの意味、そして一人ひとりがルールをつくる主体者であることに気づかせていきたい。まずは、各グループがつくったルールを発表し、それを相互に評価し合う。そのルールが利害を調整していくうえで有効であるかどうか見極める力をつけると同時に、自分とは違うルールとその根拠を知ること、自分の見方に新たな視点を加えたり補強しながら思考を再構成する場面とし、教科構想で述べている「第1の学び合い」にあたりと考えている。ここで、「効率」と「公正」の概念の形成をはかっていきたい。

本時は第2次の2時間目である。前時までには話し合った考えをクラス全体で共有し深める時間としたい。「第1の学び合い」で習得した概念を活用して、状況の変化に応じた新しいルールをつくっていく場面を設定し、ルールをつくる上で何を大切にすることに気づかせたい。そして「公正」と「効率」に対する考え方も、一人ひとりの価値観により異なることに気づかせ、それらの合意点を探りながら対立が解決され、社会が動いていることを理解させたい。

3 展開計画（全5時間 本時4/5）

| 次 | 主な学習 | 時 | 具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合い場面） |
|---|------------------|---|--|
| 1 | 問題解決のためのルールをつくろう | 1 | ○課題状況の整理 ○問題解決のためのルールをつくろう(1) ・5つの立場に分かれる。それぞれの立場に立ち、気持ちとメリットの両面からルールとその根拠を考える |
| | | 2 | ○問題解決のためのルールをつくろう(2) ・利害の対立する者で集まり模擬ミーティングを開き、ルールを考える（合意形成） |
| 2 | 良いルールについて考えよう | 3 | ○良いルールについて考えよう(1) ・各グループが考えたルールを発表し、評価し合い、再度自分の考えを再構成する ◇自分とは違う考えを知ることで、ルールに対する見方や考え方を深める |
| | | ④ | ○良いルールについて考えよう(2) ◇教師の提示する状況の変化により、「公正」と「効率」の概念を活用して、新しいルールについて再度思考を練り合う学習を通じて、社会に対する見方・考え方を高める |
| | | 5 | ○学習の振り返りをしよう ・イメージマップの変化から自分の学習を確認する |

4 「学び合い」による思考力・判断力・表現力の評価

| 次 | 時 | 学習活動 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価資料 | 評価基準 | | |
|---|--------|---------------|-----------------------------------|------------------|---|--------------------------|---------------------------|
| | | | | | A | B | C |
| 2 | 3 4 | 良いルールについて考えよう | 問題解決のための良いルールの条件を公正と効率の観点からとらえている | イメージマップ ふりかえり | 良いルールの条件を公正と効率の観点から述べ、自らもそのようなルールをつくる主体者であるという意欲がみられる | 良いルールの条件を公正と効率の観点から述べている | 良いルールの条件を公正と効率の観点から考えていない |

5 本時の学習

(1) ねらい 球拾いと片付けを誰がどんなふうに負担したほうが良いか話し合うことによって培われた「公正」と「効率」の概念を、状況の変化による新しいルールづくりに活用することで、社会に対する見方・考え方を高めることができる。

(2) 展開

| 学習場面と子どもの取り組み | 教師の支援と願い・評価 |
|-----------------|--|
| 1. 前時の学習をふりかえる。 | ・1つの班を残し、本時の最初に発表させることで、前時までに培ってきた「公正」と「効率」の概念をおさえる。 |

2. 本時のめあてを確認する。

・本時の学習に見通しがもてるよう、めあてを提示する。

状況の変化！新しいルールを考えよう

3. 1年生2人がレギュラーになり、練習をしないといけない状況に。今まで学習してきたルールの要素をふまえて、自分なりの新しいルールを考えよう。

◎今までの視点を取り入れて新しいルールを考えている生徒の一例を取り上げて、他の生徒の意見を聞きながら思考を練り上げていく。

- ・1年生で球拾いをしないのは不公平かもしれないけど、みんな勝ちたいと思っているので、「効率」で考えると勝つためにはしょうがない。
- ・負けたら次の大会に出場できなくて、試合の機会すらなくなってしまう。「効率」を重視しても仕方ないかな。
- ・部全体がレベルアップしていくためには競争があったほうがいい。悔しい思いの人も、それをバネにして練習すれば、自分の力になる。
- ・球拾いをするその他の1年生や2年生は、やっぱり悔しいだろうし、不公平だと感じると思う……。
- ・不満に思う人が多いと、練習へのやる気がおきなくて強くなれないのではないか。「公正」を優先に考えた方が、結局、部を強くできるのでは。
- ・練習をして、実力の差がでてレギュラーに選ばれないのは納得できるけど、練習の機会が平等に与えられないのは、おかしいと思う。
- ・球拾いや片付けから学ぶこともあると思う。それを1年生のときに経験しないのは不幸。

◎なぜそのようなルールにしたのかその根拠を掘り下げていくことで、生徒の内面の思いに気づかせる。

・意見の対立の背景には、思いや価値観の違いがあることを押さえる。

4. 本時をふりかえる。

- ・「公正」をとるか「効率」をとるか難しい問題で、いろいろな考えがあるから完全な合意は難しいと思うけど、納得できる点を増やす努力をしていくことが大切だと思う。
- ・「公正」と「効率」のどちらか一方のみの考えではいけないと思う。そのルールにより、不満に思ったり、立場が弱くなる人のことを考えて、どうやってそれを小さくするか考えないといけないかな。
- ・みんなが自分の意見を言う機会が必要だと思う。決め方が「公正」でないと、内容が良くても納得できないと思う。

評価の観点 (社会的な思考・判断・表現)

球拾いと片付けを誰がどんなふうに負担したほうが良いか話し合うことによって培われた「公正」と「効率」の概念を、状況の変化による新しいルールづくりに活用することで、社会に対する見方・考え方を高めることができた。

【評価方法 発表・ワークシート】